

## 2011年度のボランティア・NPO 活動センターをふりかえって

センター長 松島 泰勝

2011年度の本センターにおいては、これまでと同様、学生スタッフにより企画された活動が展開されました。数多くの学生スタッフが本センターの活動を支えてくれていることに改めて感謝したいと思います。

2011年度の本センターの活動で特筆されるのは、3月11日に発生した東日本大震災です。震災直後、学生スタッフが自主的に京都市や大津市の商店街、大学内等において募金活動を始めました。寒いなか、大きな声を出して義捐金を呼びかけていた学生の姿が印象的でした。教職員からの義捐金を含めて約1700万円を中央共同募金会に寄付させていただきました。

4月、5月、7月、9月に復興支援ボランティア・ガイダンスやボランティア報告会、ミーティングを深草・瀬田の両校舎で行い、被災地において支援活動をすることの意味、その方法などを学生、教職員が話し合いました。

6月には関西でできる復興支援の取り組みとしてNPO法人JIPPOと協力し、福島県の物産品販売を行ないました。また第4回、第5回の復興支援ボランティアでご縁のあった石巻市雄勝町の物産品を学内の3キャンパスで販売しました。被災地の物産を購入することも、被災地の生活や経済の復興につながると考えたからです。

6月から12月にかけて、第1回から第5回までボランティアバスによる被災地支援活動を宮城県石巻市、宮城郡七ヶ浜町等で行ないました。被災者の方に寄り添い、被災地の復興のために学生たちが互いに協力し合いながら支援活動をしました。直接、被災者の方から震災当時のことを聴いたり、復興に向けた歩みを目にすることもできました。支援活動の内容を他の学生や教職員に報告する報告会を数回開くとともに、ボランティア活動に参加した学生同士で互いの思いを語り合う茶話会を開きました。

ボランティアバスによる支援活動においてご縁を頂いた石巻の方々を招いて、東日本大震災復興支援フォーラム「震災復興に果たす大学の役割」を開催しました。10月22日、石巻市社会福祉協議会の阿部由紀氏が「震災から復興を目指す宮城県石巻市」と題する講演を行い、東北福祉大学学生、本学学生が被災地でのボランティア活動について報告をしました。翌23日には「震災復興に果たす石巻専修大学の役割」と題して、石巻専修大学の坂田隆学長が基調講演を行い、「震災で変わる社会。復興への提言と大学の役割」と題して本学教員が本学における復興支援の取り組み事例を紹介しました。

本学における東日本大震災復興支援への取り組みは全国紙、京都新聞等で取り上げられ、大きな反響がありました。

龍谷大学として学生ボランティア等の被災者・被災地支援活動検討プロジェクトチームを立ち上げ、学生の意見を取り入れながら復興支援活動の方向性や内容に関して話し合ってきました。東日本大震災は長期にわたる支援活動が必要とされており、ボランティアNPO活動センターとしても今後も長期にわたる支援活動を続けていきたいと考えています。

大震災以外の本センターの活動としては野宿者支援プロジェクトをNPO法人JIPPOと協力して実施しました。また4月と10月に海外体験学習プログラムの報告会を開催しました。5月に深草校舎の近くで実施された「第1回ふかくさ100円商店街」、7月に大津市中心市街地にある丸屋町商店街での「ナカマチ商店街土曜夜市 in 丸屋町」そして、10月、大津祭宵宮の丸屋町商店街の縁日という地域のイベントに学生がボランティア活動を行ない、地域活性化のための活動をしました。その他の地域活動としては、伏見区消防署と協力した防災啓発活動の実施、伏見区社会福祉協議会との連携事業がありました。以上のような活動の他にも学生自身が企画し、実施した多くの事業があります。

2010年度からスタートした龍谷大学の「第5次長期計画」の中で本センターの検討課題とされてきた「ボランティア支援のための学外・学内連携体制を検討」「ボランティア活動を担う学生の育成を検討」に関しては、東日本大震災の復興支援活動や、その他の本センターの業務によって大きく進展したといえます。他方、「正課教育におけるボランティア関連科目の展開を検討」については、他大学のボランティア科目や支援活動を調査・整理して、本学におけるボランティア科目のあり方を提示することが来年度のひとつの目標となります。

ボランティアは無償性、社会性、自発性という3点を特徴としています。地域や市民社会において学生がこのような意味でのボランティア活動を行うことができるような体制を本センターは今後も提供したいと思います。皆様のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

